

2023 年秋季堅果類等の豊凶調査結果報告（速報）

島根県中山間地域研究センター

鳥獣対策科 田川 哲

1. 背景・目的

秋季のツキノワグマは冬眠に備えて食欲亢進期に入り、餌資源を求めて行動し、山の中の堅果類等の餌資源量が少ない場合は、食べ物を求めて長い距離を移動することが知られており、このことが大量出沒の一因といわれている。本調査は、秋季におけるツキノワグマの主な餌資源である堅果類等の豊凶状況を調査することで、行政等の迅速な対応と被害を抑制するための注意喚起を目的に実施した。

なお、この豊凶調査は西中国三県（島根県、広島県、山口県）で協力して行っていること、県境の市町においては、他県の豊凶状況も出沒に影響を及ぼす要因だと考えられるため、西中国三県の豊凶調査の結果も併せて報告する。

2. 調査方法

調査対象樹種はブナ、ミズナラ、コナラ、シバグリ、アラカシ、スダジイ、シラカシの堅果類7種とクマノミズキとウワミズザクラの液果2種で、ウワミズザクラは5-6月にそのほかの種は8-9月に調査を行った。20 kmメッシュごとに生育している調査対象樹種からそれぞれ3本を調査木と選定し、目視にて果実数を数えた。

3. 結果

①島根県について（表1、図1）

地域（20 kmメッシュ）ごとの豊凶状況について、ツキノワグマの主な生息地である高標高域に生育しているブナとミズナラは凶作であった。島根県に広く分布するコナラは、地域によって豊凶が分かれており、益田市や浜田市と広島県の県境付近、飯南町で凶作であった。シバグリとアラカシは、ほとんどのメッシュで豊作であった。スダジイは並作から豊作であった。ウワミズザクラは、ほとんどのメッシュで凶作、クマノミズキは益田市や江津市で凶作であった。島根県の全域における堅果類等の豊凶状況は、ブナ、ミズナラ、ウワミズザクラが凶作、コナラとクマノミズキは並作、シバグリ、アラカシ、スダジイ、シラカシは豊作となった。

②西中国地域について（表2、図2）

西中国地域の豊凶状況は、西中国三県の中部から西部にかけてコナラやスダジイが凶作のメッシュが多かった。シバグリやクマノミズキも西中国東部よりも西部のほうが凶作のメッシュが多く、高標高域に生育するミズナラは、一つのメッシュを除いて凶作であった。

4. 注意事項

ツキノワグマの主な生息地である高標高域に生育するブナとミズナラが凶作であったため、奥山に生息するツキノワグマの行動範囲が広がり、ツキノワグマが餌を求めて、人里に出沒する可能性がある。また、地域によってはコナラやスダジイが凶作の場所もあるため、それらの地域と周辺も同様に、ツキノワグマの行動範囲が広がることで集落に出沒する可能性がある。いずれの地域においても、人家周辺等人の活動圏ではツキノワグマの出沒を抑制するために、カキやクリなどの放棄果樹や生ごみなどツキノワグマを誘引するような物については、放棄果樹は実の除去やトタン巻き、生ごみは野外に放置しないなどの対応が必要である。

表1 島根全域における堅果類等の豊凶基準に基づく評価

ブナ	ミズナラ	コナラ	シバグリ	アラカシ	スダジイ	シラカシ	クマノミズキ	ウヅミザクラ
凶作	凶作	並作	豊作	豊作	豊作	豊作	並作	凶作

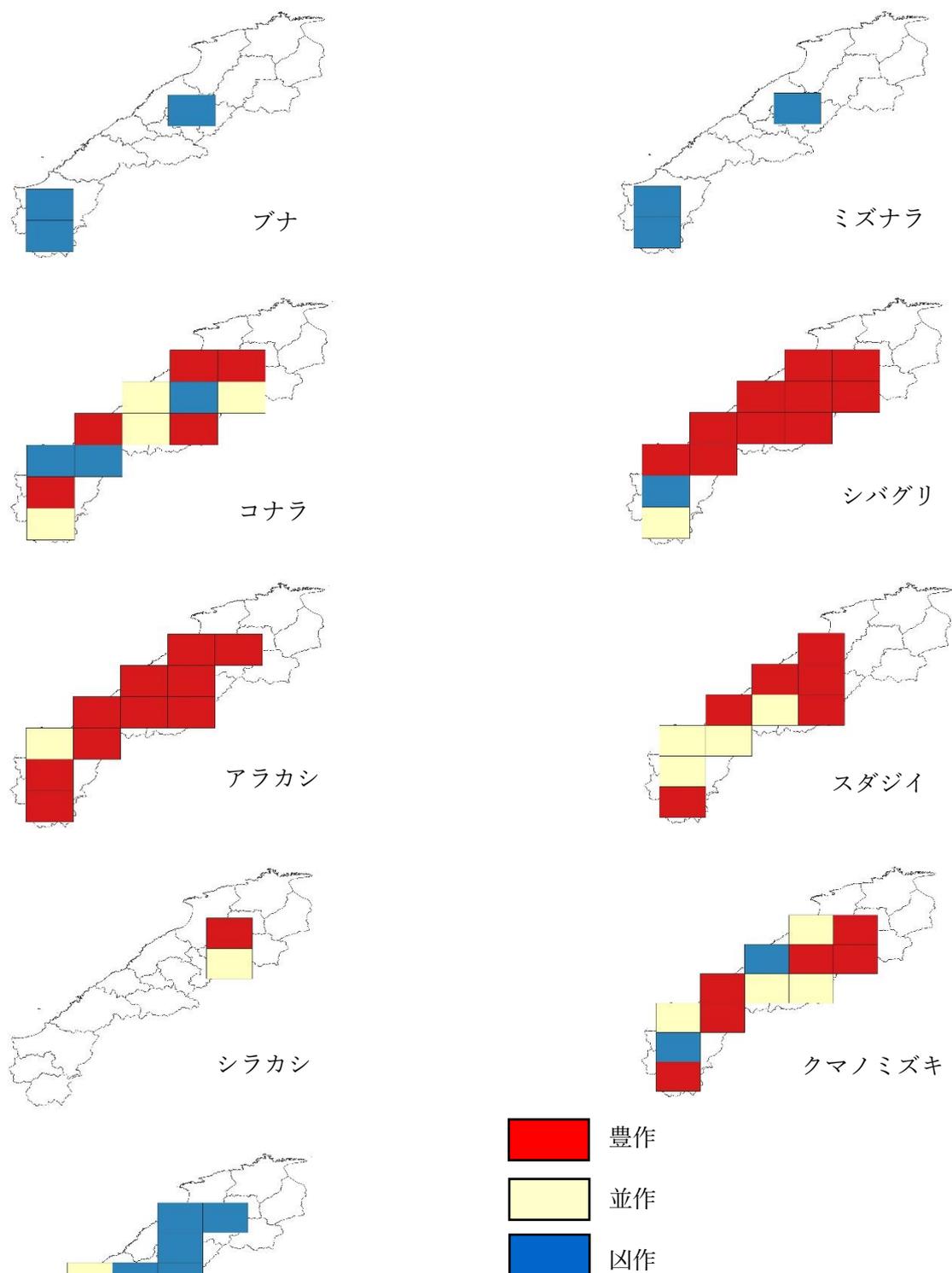
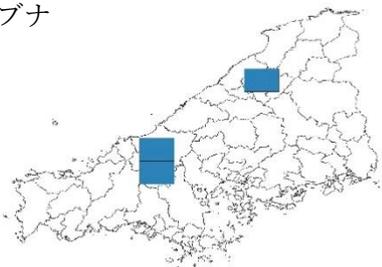


図1 島根県における 20 kmメッシュごとの各樹種の豊凶状況 (地域ごとに豊作時のカウント数から豊凶の閾値を求めるため中国三県の豊凶と異なるメッシュがある。)

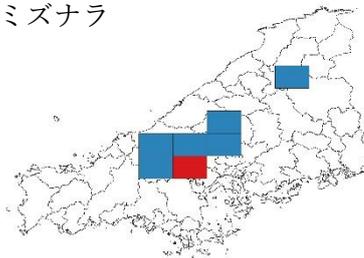
表2 西中国三県における堅果類の豊凶基準に基づく評価

ブナ	ミズナラ	コナラ	シバグリ	アラカシ	スダジイ	シラカシ	クマノミズキ	ウワミズザクラ
凶作	凶作	豊作	豊作	豊作	豊作	豊作	並作	凶作

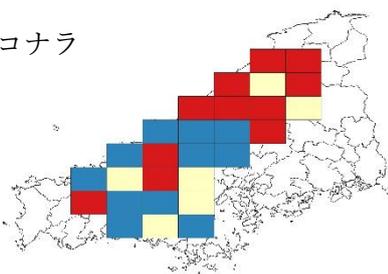
ブナ



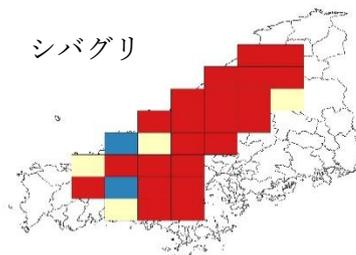
ミズナラ



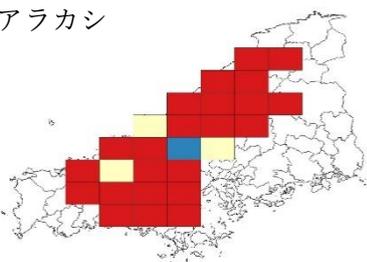
コナラ



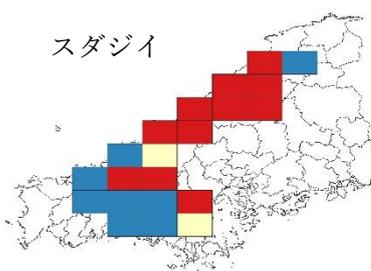
シバグリ



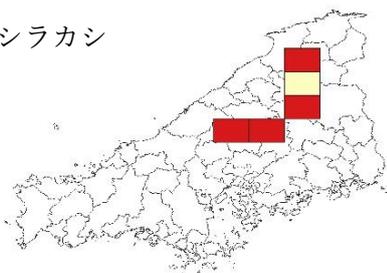
アラカシ



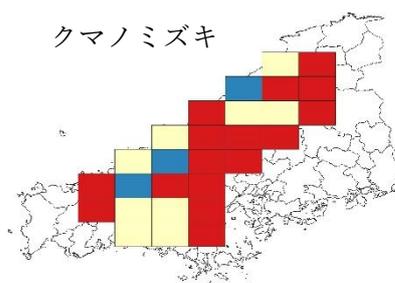
スダジイ



シラカシ



クマノミズキ



ウワミズザクラ

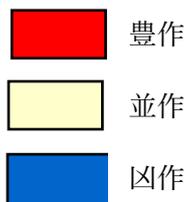
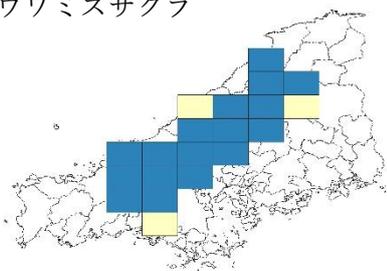


図2 西中国地域における20 kmメッシュごとの各樹種の豊凶状況